

# パラリンピック報告

## 報告：特定非営利活動法人日本パラ・ パワーリフティング連盟、吉田寿子

問合せ : ファックス 03-6229-5420

電話 : 03-6229-5423 吉田、久保

メール : [jppf.jimu@gmail.com](mailto:jppf.jimu@gmail.com)

ホームページ : <http://www.phouse.jp/>

パラスポーツの祭典、パラリンピックが、9月8日から18日までの10日間、日本から見れば、地球の裏側、ブラジル、リオデジャネイロで開催された。

治安が悪い、ジカ熱の恐れ、資金不足で続出する選手村トラブル、オリンピックでの強盗事件、オリンピック選考前の選手による賭博問題、それに対する各競技団体のコンプライアンス等対応の急務——いつになく、不評と不安が広がる中、各競技団体とも、不祥事が起こったら大変と、いつものパラリンピックと比べると、幾分身動きのとりにくいルールを敷いて、各国選手団、IPC役員一同がリオデジャネイロに集結した。



リオパラリンピックパワーリフティングメンバー

監督 石田直章  
(連盟理事、JPC公認コーチ)

コーチ 岡本孝義  
(連盟正会員、JPC公認コーチ)

日本代表選手

49kg級 三浦浩(東京ビッグサイト)

54kg級 西崎哲男(乃村工藝社)

88kg級 大堂秀樹

(コカ・コーライーストジャパン)

IPC審判員、吉田進、吉田寿子



写真上、リオ代表パワーリフティングチーム、成田空港に集合、写真下、打ち上げ花火に煙る開会式

## 滑り込みでパラに選ばれました。パラリンピックサポートセンターで報告する三浦選手。

リオの選手村に到着し、一番驚いたのは、食事のまずさ。ロンドンの時のようなバラエティーにとんだメニューはなく、どの食堂のブースに行っても、同じような食事が並ぶ。味は、何も味がついていないか、塩辛すぎるかのどちらか。日本選手団は、それを見越して、日本食をたっぷり用意し、JPCやハイパフォーマンスセンターでもおにぎりや日本食を配布し、選手のパフォーマンスに影響がないように配慮して下さっていたようだ。また、パワーリフティングの選手達も沢山の日本食を用意し、自炊に近い毎日を送っていたようだ。

ただ、IPC派遣の私たち審判員には、そのような準備も、配慮もなく、これは、2週間で3kgの減量だ、という覚悟が必要だった。(当たり前だがアルコール類は皆無)

また、部屋には、ベッドがポツンと置いてあるだけで、机も、椅子もなく、居場所のない部屋で2週間を過ごすことになった。こちらも、日本選手団は、レートカードと言って事前にテレビや、机、椅子、その他ネット環境などを申し込む余地があったが、IPC派遣審判には、くつろぐ場所もない状態だった。

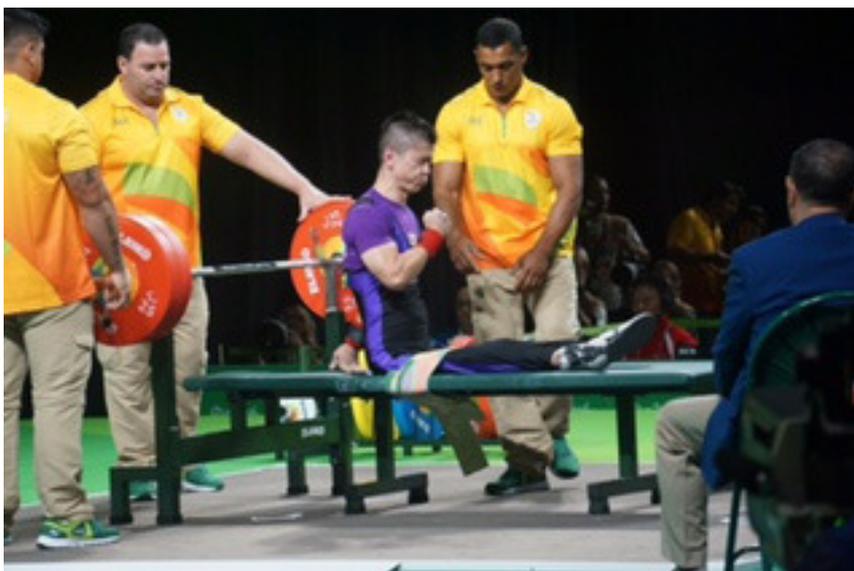
救いと言えるかどうか、朝6時過ぎには会場に向かい、部屋に戻るの、午後9時過ぎ、判定で神経を使い、くたくたになって戻るので、部屋では寝るだけの生活、くつろぐ時間のなかったことが逆に住み辛い選手村を気にする余裕もなかった、と、言ったところだ。

東京オリンピック・パラリンピック組織委員会の方々も視察に来ておられたが、せめて東京ライフは、ロンドンのときのように、ある程度自由に動き回れ、部屋もしくは、各選手村棟でくつろぐ場所があり、競技も楽しみ、選手村生活も楽しめる、そんなパラリンピックを提供していただきたいものだ。

パラ・パワーリフティングの代表は、4月にIPCから指名のあった、男子54kg級西崎哲男選手、男子88kg級大堂秀樹選手だった。だが、ロシアのドーピング問題で、ロシアの240のエントリー枠が空き、各競技団体、各国に割り当てが回ってきた。日本では、柔道2名、トライアスロン1名、そして、パワーリフティング1名。合計4名が新たにパラリンピック参加選手に加えられることになった。IPCから指名が来るとすれば、男子49kg級、か、男子80kg級。二人には、急遽指名が来る可能性があることを伝え、期待の中、待っていたところ、三浦浩選手に指名が来た。すでに、飛行機も決まり、ユニフォームも製作済みの中、どうなるかと思っていたが、

JPCが余裕を持って作っておかれた、ユニフォームを支給いただき、大変、急ではあったが、パワーリフティング日本選手3名のリオパラ参加が決まった。

7月には、パワーリフティング専用の合宿所が京都にでき、2週間に一度集まって、リオ選手、コーチとのコミュニケーションならびに大切なコーチによる選手の実力の見極めを行いながら合宿を重ねてきた。この合宿には、リオ代表だけでなく、東京パラリンピックを目指す新しい選手も参加し、パ



リオの舞台上、気合を入れる三浦選手。

アップ場で、さあいくぞ！西崎選手。



ワーリフティングのあらゆる意味での拠点となる京都合宿の重要性を改めて思い知らされることになった。

IPCからは、吉田進と吉田寿子（いずれもIPC国際1級審判員）がリオの一年前に審判指名を受け、リオのテストイベント、UAEドバイ、クアラルンプールの3つの国際大会で研修を受けて、リオの審判を勤めさせていただいた。IPC側からみたリオパラリンピックの現状についても、吉田進から、東京オリンピック・パラリンピック組織委員会に改善点や、見習うべき点などの報告がなされた。

### 大会初日 49kg級三浦浩選手 126kg 5位。

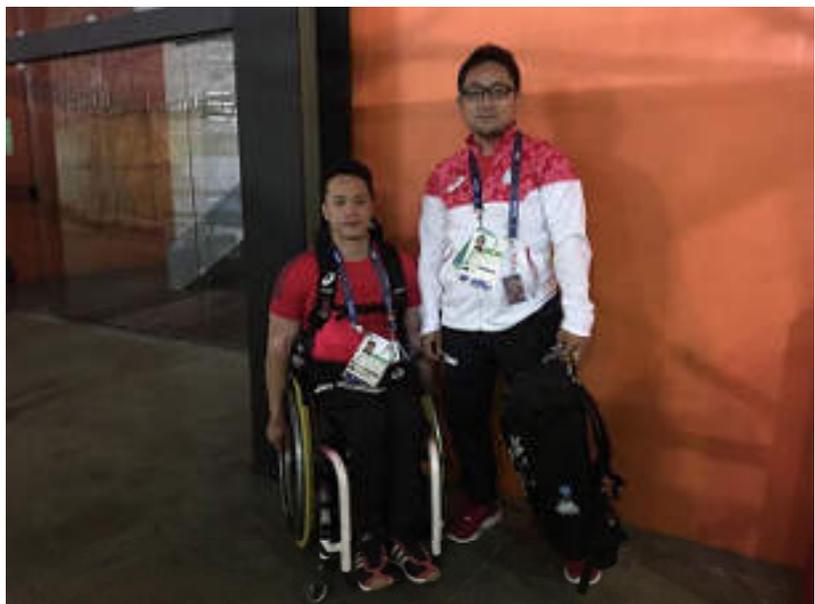
本年はじめ、体調を崩し、リオのテストイベントでは90kgしか上げることができず、IPCの代表から三浦選手は引退か、と、質問を受けるくらいだった。だが、4月くらいから体調の回復とともに、記録も徐々に戻りだしてきていた。また、6月のジャパンカップには、IPC代表も来ており、三浦選手の復調している姿が、今回のリオ追加指名につながったのだと思う。また、8月末に開催された兵庫県の健常者&障がい者交流会にエントリーしていたことが幸いし、体調・記録ともに、試合にむけての準備ができていたようだ。

結果的に、自己ベストには及ばなかったものの、当連盟最高のパラリンピック5位をマークした。三浦選手51歳。パワーリフティングは、50代になっても続けることのできるスポーツであることを証明し、東京に向けては、ぜひ、50歳代で自己新記録をマークし、多くのパラリンピックを目指す選手に希望を贈っていたきたい。

### 大会二日目 54kg級西崎哲男選手 失格

初出場で、リオ行きが決まってから、マスコミに引っ張りだこになり、連盟としては、マスコミ調整をすべきであったかと、反省すべき点がある。初めての大会への不安や、心配が西崎選手を圧倒しないかとその重圧の大きさを慮った。だが、パワーリフティングアスリート、舞台の上で頼れるのは、自分自身への自信とこれだけ練習してきたから大丈夫だと言う信念だ。本人としては、絶対大丈夫と踏んだのだろう。127kgからスタートしたが、これが上がらず失敗。岡本コーチが第二試技では補助に何かを話していたようなので、一本目は補助員とのタイミングが合わなかったのかもしれない。二本目は挙げたものの胸でバーがゆれて失敗。三本目は、挙上途中に二度ほどぶれがあり、惜しくも失敗。

パラリンピックの判定は、想像を絶するほど厳しい。わずかなぶれは、各コマを集めたビデオや動画では分からない場合が度々ある。そのため、IPCではビデオ判定と言うものを否定し、厳しく訓練した審判3名と陪審員5名が肉眼で選手の試技を判定する。私や吉田進も審判、陪審員の役割を与えられた日には、一つ一つの試技に選手と同じように集中す



西崎選手と岡本JPC公認コーチ

るので、神経はくたくたになる。

また、自分の判定基準が間違っていないか、と、役割にあたってない場合でも、全ての試合を観客席で判定し、自分の判定基準が動じないものとなるよう、訓練を続けている。

選手やコーチがパフォーマンスを舞台で行うまでに、どれだけ、賭け、生活を律してきたかと思うと、よもやまいい加減な判定は、とてもできないことなのだ。

日本選手にも、外国の選手にも言いたいのは、失敗した試技の90%は挙がったが、胸や挙上途中でのぶ

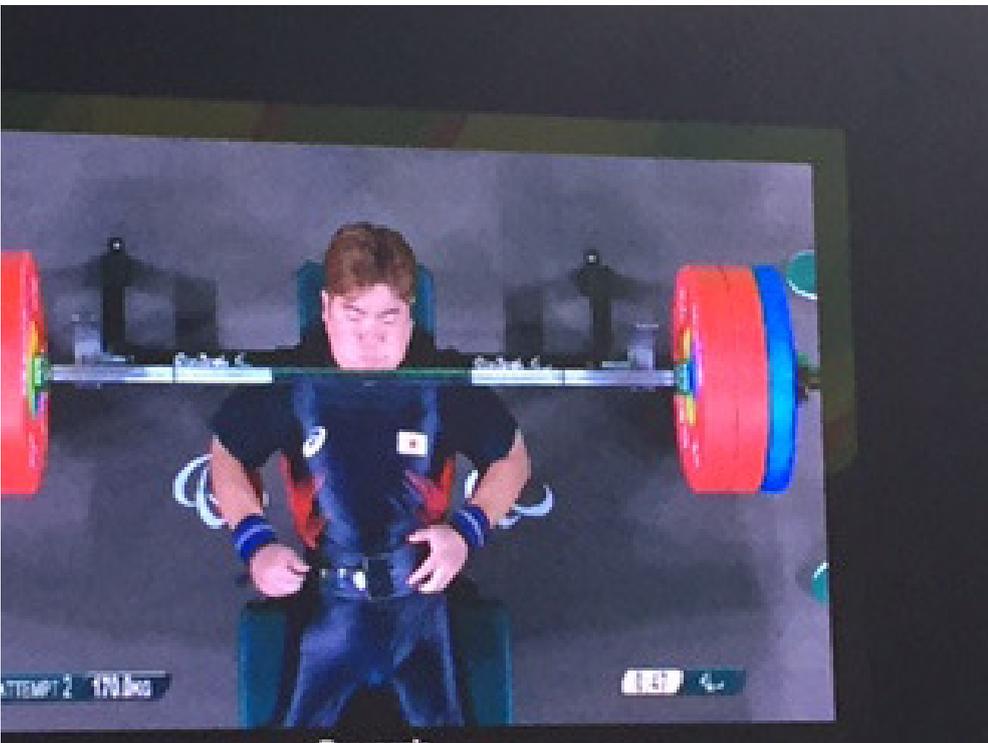
れが原因で赤判定となっている。いかに、審判が見て、「白」と判定する試技を身につけることがパラ・パワーリフティングでは大切か、ということだ。試合後の審判ミーティングで、この「赤判定」の多さに、IPC代表からは、国に戻ったら、各国チームの選手、コーチにルールをもう一度一から勉強するよう伝えてほしい、なぜ、審判が「白」をおさないのか、全ての理由は、ルールブックに書いてあり、審判は、そういう練習をする訓練に国に戻ったら付き合っ、大きな舞台で、失敗を減らすようにしてもらいたい、と、課題を与えられた。

西崎選手には、初舞台は大きな試練となってしまったが、東京、そして、その先のパラリンピックを目指して、引き続き、ぜひ、頑張っていたいただきたいと思う。



## 大会6日目 大堂秀樹選手 160kg 8位

ロンドンパラリンピックで6位に入った大堂選手、200kgオーバーを目指して、練習を積んできた。コーチも連盟も、練習のし過ぎではないか、と、心配していたが、1999年ストークマンデビル大会で国際デビューを果たして以来17年。着実に毎年記録を伸ばしてきた大堂選手。体と、相談しながら、リオの地を踏んだが、今回ばかりは、故障が大きく、もう一度体の修理から始める試練を受けることになった。その試練の中で大堂選手の



160kgスタートは、屈辱であったかもしれない。それでも、自分の体を知り、力を知り、堂々と8位に入賞してくることに、大堂選手の心と運の強さを垣間見させてもらった。体の修理、そして、頂点へ。東京パラリンピックでは、輝ける結果を連盟も一緒になって夢を見ていきたいと思っている。

連盟として、ひしひしと感じるのは、東京パラリンピックが決ま

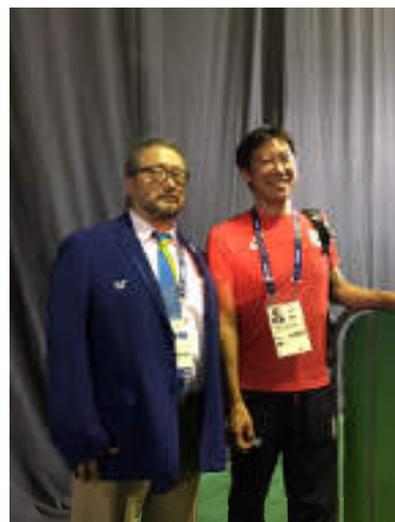
試技に向かう大堂選手、パワーリフティングでは上からの映像が必須

## 310 kgの世界新記録をマークしたイランのラーマン選手と、IPCスタッフでパラに参加した山本選手



り、連盟が指定した強化選手に対し、その選手がどのような練習をし、その選手の体調がどうで、どのくらいの成績を収められそうか、ということをし、しっかりと把握。そして、助言、指導していかなければならない、ということだ。今までとは段違いの金銭的、物的支援をJPCや日本スポーツ振興センター、パラリンピックサポートセンターそしてスポーツ庁が強化指定選手に対してしてくださっていることを考えると、連盟が選手のことを把握していない、できない、と言うのは、まったく不誠実であり、選手にとっては鬱陶しい事かもしれないが、連盟としてもJPCコーチ資格取得者にも、もっと強化指定選手の練習内容や体調に、口出ししていかなければならないという課題をこのリオでは突きつけられた。そして連盟全体で、選手のトレーニング状態、体調を共有していくことはとても大事なことでと痛切に感じている。

それが、サポートして下さる全ての方々への連盟と強化指定選手の義務だと思う。



写真左、リオパラリンピック審判団集合。写真右、パワーリフティングを視察した鈴木長官



あの、オリンピックのサッカー決勝戦で8万人の応援が怒涛のように降り注いだマラカナン競技場。

パラリンピックの開会式や閉会式では、満席になった観客席にいる全ての人々の、一人一人の声が、大きな塊となって、各国選手団に降り注いだ。それは、何にも増して選手への尊敬と、励ましの観客からの力のこもった贈り物だ。

この力をリオパラリンピックだけでなく、東京、そして、次のパラリンピック、そして、生涯の糧として、選手の皆さん、コーチ、には、自負をもって、大事にしていただきたいと願いたい。



さて、リオパラリンピック日本選手団。金メダルは残念ながら取れなかったが、銀10個、銅14個、総合メダル順位では、64位。パワーリフティングで忙しく、他競技を見られたのは、水泳のみ。他の競技はパワーの試合の合間に、テレビで見たくらいだが、もし、日本の他の競技の方々がパワーが欲しいと思われたら、ぜひ、パワートレーニングを活用していただきたいと願いたい。

私たち日本パラ・パワーリフティング連盟のモットーは、「筋肉で日本を持ち上げる」なのだから。

写真上；オリンピックパーク。平日でも多くの人々にぎわっていた。

写真中；水泳競技。障害別にさまざまなクラスがあり、障害によっては、両腕、両足欠損の選手が、体のドルフィンだけで、他の選手を圧倒し、観客から盛大な拍手を受けていた。

写真下；パワーリフティングの会場の画面に大写しになった日本選手の応援団。遠いところありがとうございました。



リオでは、日本を紹介する「ジャパンハウス」が市内に作られ、全国各都道府県のシンボル写真の展示、お寿司のサービス、などが提供されていた。

9月17日、関係者500名ほどがこのジャパンハウスに集い、2020年東京オリンピックパラリンピックの開催イベントとして鏡開きが開かれた。小池東京都知事もユーモアを交えて流暢な英語でご挨拶され、「この日が、東京2020の第一歩です」と、関係者一同、日本酒で乾杯が交わされた。

そして、9月18日、閉会式で、小池都知事が、ブラジルからIPC旗を受け取り、9月21日には、東京都庁前で、IPC旗の受け渡し行事が予定されているということだ。

閉会式の夜空に羽ばたく、ブラジルと日本国旗。さて、いよいよ、リオから「TOKYO 2020」へ――。



## パラ・パワーリフティング日本選手結果

### 男子49kg級結果

1	van Cong Le	ベトナム	47.54	181	世界新記録	大会新記録
2	Omar Qarada	ヨルダン	47.05	177		
3	Nandor Tunkel	ハンガリー	47.31	155		
4	Basha Farman	インド	45.65	140		
5	<a href="#">三浦浩</a>	日本	45.88	126		
6	Pia	ラオス	45.81	121		
	Aliou Bawa	トーゴ	42.92	-		
	Keunjin Choi	韓国	48.02	-		
	Patrick Ardon	フランス	48.26	-		

### 男子54kg級結果

1	Roland Ezuruike	ナイジェリア	51.73	200	大会新記録	
2	Jian Wang	中国	53.62	170		
3	Dimitrios Bakochristos	ギリシャ	52.57	162		
4	Bruno Carra	ブラジル	53.79	162		
5	Esen Kaliev	キルギス	53.41	154		
6	Jorge Carinao	チリ	53.94	150		
7	Sergii Khvalinskyi	ウクライナ	53.65	143		
8	Gyorgy Sztano	ハンガリー	52.96	112		
	<a href="#">西崎哲男</a>	日本	52.88	-		
	Alidou Diamoutene	コートジボワール	53.21	-		
	Binh An Nguyen	ベトナム	53.11	-		

### 男子88kg級結果

1	Mohammed Khalaf	アラブ首長国連邦	86.31	220		
2	Evanio da Silva	ブラジル	86.35	210		
3	Sodnompiljee Enkhbayar	モンゴル	87.53	210		
4	Oniger Jesus Drake Vega	キューバ	86.58	205		
5	Opeyemi Jegede	ナイジェリア	84.8	200		
6	Hany Abdelhady	エジプト	87.68	200		
7	Mutaz Aljuneidi	ヨルダン	87.67	190		
8	<a href="#">大堂秀樹</a>	日本	83.5	160		
	Jixiong Ye	中国	84.62	-		
	Seyedhamed Solhipouravanji	イラン	86.95	-		